

資料5(改訂)

科学研究費補助金(研究成果公開促進費)

予算案

2013年7月4日改訂, 実行案

	交付申請書	現実的予算	趣旨	具体的内容
	平成25年度所要経費(3140万円)	¥31,400,000	¥31,400,000	
1	当該学術刊行物にかかる電子出版関連経費	¥1,500,000	¥3,900,000	1) 当該学術刊行物に係る電子出版関連経費に関しては、2014年1-12月(ジャーナルの1年は通常カレンダー年で、1月に始まる)については最初900ページを予定しており、OA電子ジャーナルの経費として、Springer出版会社の見積もりでは1論文あたり約1000Euro(約13万円)となっています。現在、22論文の値段となっていますが、25論文を100%補助であると、10論文を20%補助とすると390万円となります。
2	当該学術刊行物の実務編集者の人件費	¥3,000,000	¥3,000,000	当該学術刊行物の実務編集者の人件費について、2種類あります。一人は経理担当、もう一人は専門職で、投稿された原稿を扱います。受付→査読(この課程で投稿者、編集者とのやりとり)→受理→刊行(受理されない原稿は刊行されない)となります。 日本学術振興会に問い合わせたところ、ジャーナル事務員と専門員経費は科学研究費補助金で支払うことができるとのことでした。事務員が116万円、専門員が184万円となります。(一応、¥1300くらいでご検討いただけないかとのことをごさしました。概算で、1日7hとして7月(週1日 月4日) 36,400、8月(前半週1日、後半週4日 月11日) 100,100、9~3月 月平均16日 145,600*7か月 1,019,200、合計 1,155,700(残業代、交通費、福利厚生費別))
3	当該学術刊行物の編集委員の補助業務人件費	¥4,000,000	¥2,500,000	「海外情報発信強化」で負担が増加する分として、全体の総編集長と各セクション編集長分野別編集長(5分野:宇宙惑星科学、大気水圏科学、地球人間圏科学、固体地球科学、地球生命科学、+横断)に補助事務員(仕事量の応じて時間で配置)を雇用します。 全体の総編集長用事務員として年間70万円、分野別副編集長に補助事務員として年間30万円x6人とすると250万円となります。
4	当該学術刊行物の実務関係の消耗品・借料費	¥2,000,000	¥1,500,000	当該学術刊行物の実務関係の「海外情報発信強化」する部分のみに使用します。事務所経費、通信費およびコンピューターの借料、消耗品費もこの項目に含まれます。 事務所に関係した経費として111万円となります(85000*13(9か月+敷金4か月)=1,105,000)。通信費およびコンピューターの借料、消耗品費で39万円を計上します。なお、通信設備の設置などに必要な工事費用については日本学術振興会の問い合わせたところ科学研究費補助金では支払うことはできない、とのことでしたので、JpGU予算より支払います。
5	編集委員会開催に係る旅費・謝金・会議費	¥2,600,000	¥2,300,000	編集委員会は日本人および外国人から構成されます。編集委員会は、5分野(分野別編集長と編集委員)に分類できます。さらに全体を統括する編集長がJpGUジャーナルの最終責任者、代表編集長となります。編集委員会開催に係る経費のうち、日本人の編集委員の旅費・謝金・会議費について計上したのがこの項目です。 サイエンス・セクション(+横串)編集長に年間10万円、全体の編集長に年間50万円謝金を支払います。全額で110万円となります。 「海外情報発信強化」として会議を開催します。編集長会議(旅費含む)20万円を2回で40万円となります。編集会議平均旅費3万円x10人*2(回)、会議費10*2(回)万円を計上すると120万円となります。
6	編集会開催に係る海外委員の旅費	¥2,600,000	¥2,600,000	編集委員会の中の構成員としては外国人の旅費などを扱うのがこの項目です。 通常連合大会の前後の5月に開催予定ですが、本年は秋開催となります。「海外情報発信強化」として毎年5名程度の海外編集委員を招聘(50万円)する予定で250万円、事前会議経費として10万円を計上します。
7	ジャーナル企画経営委員会開催に係る旅費・会議費	¥1,600,000	¥1,600,000	ジャーナル企画経営委員会開催の経費です。この委員会では、ジャーナルの中長期経営戦略(企画、財政、方針など)、既存学会誌との協調・発展を行います。 「海外情報発信強化」として会議回数を開催します。企画経営会議(旅費含む)30万円を4回で120万円となります。会議費10*4(回)万円を計上すると合計で160万円となります。

8	当該学術刊行物の査読・審査に対する謝金等	¥1,000,000	¥800,000	本項目は国内査読者むけのもの、当該学術刊行物の査読に対する謝金等を実施する場合の経費です。JpGUに参加する学協会でも国内誌の査読の作業に小額ではあるが謝金を支払う場合があります。一方、国際誌についてはほとんど前例がありません。査読期間の短縮、質の高い査読など、査読作業の質を向上させる点を検討する会議を開催し、理事会でも議論し、決定されれば実行したいと考えます。一方で、別の方法で査読作業の向上ができないか、改善策を模索することも重要と考えます。	「海外情報発信強化、査読システムの改良」として会議を開催します。基本的に編集長会議(旅費含む)が対応します。20万円×2回で40万円となります。謝金がベストな場合には、1論文あたり4,000円程度の謝金費用を予定しています。なお、査読の結果「棄却」された原稿であっても、その査読は「受理」の場合と同様の労力を伴うので、同額を支払います。一応、100本程度の査読として予算を計上します。
9	当該学術刊行物の欧文校閲費用	¥2,300,000	¥2,300,000	刊行物の「高品質な内容」とともに「高品質の英語」も商品として必須なので、欧文校閲を行うことは、本事業を実施する上でルーチンのプロセスとなります。投稿者が英語を母国語としない国の方の場合、原則として自動的に英文校閲を行う予定です。	刷り上がり2ページで1万円の英文校閲費用として経費見積もりをしています。230ページで230万円を計上します。Referenceなどは英文校閲にだしません。
10	特別セッション推進の加速経費	¥2,900,000	¥3,000,000	特別セッションと質の高い論文の投稿への取組み】海外情報発信への新規取り組みとして「複数の学会(分野)にまたがるようなトピックスを対象として特別国際セッションの企画」を募集・実行する予定です。セッションへの援助の義務は、「海外からの招聘者と日本側の代表格の方々(2013年度は約2-4名)は講演内容をJpGUジャーナルに論文として投稿」です。これにより有意義なセッションの開催と質の高い論文を集めることができます。	一軒 50万円程度で、6件として300万円を計上します。
11	情報発信・引用促進の加速費	¥2,900,000	¥2,900,000	海外情報発信強化・引用促進の加速経費としては、アビールサイトなどのメモリー容量、より効率的な運用ソフトの開発で290万円を計上します。	
12	広告・宣伝費	¥4,200,000	¥4,200,000	本事業は「日本の地球惑星科学を代表する組織」が新規にジャーナルを発信することなので、海外に対して十分な広告・宣伝をする必要があります。この分野には、アメリカ合衆国を代表するAGU、ヨーロッパを代表するEGU、南アジアではAOGSがあり、両者とJpGUは相互に地球惑星科学に関する協力協定を結んでいます。	2011年1月の創刊を前に、AOGS、AGUへの職員の覇権、AGU、EGUのニュースレターへ、本事業を大きく広告する予定であります。また、国内の学会に対しても、協力的な発展をするために、宣伝・広告を行います。海外への発信経費として職員派遣として50万円×3(ヶ所)*1回、国外学会のブース費用として25万円×6(ヶ所)、国内学会のブース展示などを通ずる経費として6×20万円を計上しています。
13	当該学術刊行物の実務関係の備品費	¥800,000	¥800,000		